

報告

第45回 技術士全国大会(福島)報告

長井智典

1. はじめに

第45回技術士全国大会は、2018年11月11日(日)～14日(水)の4日間の日程で東北本部が担当し、福島県郡山市で開催されました。全国からの参加者数は600余名、北海道本部からは、36名が参加しました。ちなみに日本技術士会の組織別では、開催地である東北本部が最も多く、次いで関東甲信県支部、統括本部と続き、北海道本部は4番目に多い参加者数でした。



写真-1 大会宣言

グア伊で開催されました。いずれも JR 郡山駅徒歩圏内でした。

2. 大会の概要

(1)大会のテーマ及び大会宣言

今回のテーマは、「未来技術の創生と展望～巨大災害を生き抜く～」でした。震災発生から7年8ヶ月が経過しましたが、福島県は大津波と原子力災害によって、自然的、社会的及び経済的な基盤が失われ、復興事業の停滞と避難生活や風評被害を余儀なくされています。

大会宣言では、上記テーマのもと、復興に取り組んでいる福島の地に集った全国の技術士が、あらためて福島県の復旧・復興の現状と原発事故処理・地域再生事業の取り組み状況を再認識するとともに、活力ある地域づくりと国土の防災・減災への取り組み、社会の安全・安心確保等の重要性を全国に発信し、誠実に行動するよう、東北本部福島県支部の矢吹優子技術士(農業部門)により宣言されました。

(2)会場

大会会場は、式典会場をホテルハマツとし、前日の特別分科会・ウェルカムパーティーを郡山ビューホテルアネックス、専門会議・部会関連行事がビッ

(3)スケジュール

【11月11日(日)】

- ・特別分科会
- ・関連行事(全国防災連絡会議、技術者倫理情報連絡会、青年の集い、各部会会議・見学会等)
- ・ウェルカムパーティー

【11月12日(月)】

- ・第1～第4分科会
- ・大会式典
- ・記念講演
- ・交流パーティー
- ・パネル展示
- ・パートナーズツアー

【11月13日(火)】

- ・テクニカルツアー A、B-1(日帰り)

【11月13日(火)～14日(水)】

- ・テクニカルツアー B-2、C(1泊2日)

3. 全国大会

(1) 大会式典

大会式典は、ホテルハマツ 3 階左近にて開催されました。式典開催に先立ち、福島県立安積黎明^{あさか れいめい}高等学校合唱団のオープニングコーラスがありました。安積黎明高等学校は、特に合唱の名門校として知られ、朝日新聞社主催の全日本合唱コンクール全国大会では 1980 年から 35 年の長きにわたり連続金賞に輝き、NHK 全国学校音楽コンクールにおいても受賞の全国最多記録を保持しています。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災では校舎 2 棟が全壊の被害を受け、体育館での授業やプレハブ校舎での学校生活が丸 3 年続く中でも真摯な練習を続け、避難地域へ明るい歌声を届ける活動を行ってきたそうです。オープニングコーラスでは 3 曲が披露され、式典出席の中には涙ぐむ方も見られました。



写真-2 オープニングコーラス

オープニングコーラスの後、大会委員長の吉川謙造東北本部長が歓迎の挨拶をされ、続いて、高木会長の式辞、文部科学大臣(代読)の祝辞、新妻参議院議員・福島県知事(代読)・郡山市長・農水省東北農政局長・経産省東北経済産業局長・国交省東北地方整備局長からの来賓挨拶、来賓紹介、祝電披露、大会宣言と続き、吉田康彦大会実行委員長の挨拶にて閉会しました。

(2) 記念講演

記念講演は、歴史作家の星亮一氏が「会津藩から学ぶ復旧・復興の心構え」と題して講演されました。星氏は、東北大学文学部を卒業後、福島民報社記者

として会津若松への赴任により会津藩と出会い、その後福島中央テレビへ移籍、報道制作局長を経て作家デビューされました。代表作として「偽りの明治維新一会津戊辰戦争の真実」「奥羽越列藩同盟―東日本政府樹立の夢」など多数あります。

講演では、自身の先祖(仙台藩士であり会津藩を支援)紹介から始まり、前回の全国大会(山口)や安倍総理を引き合いに、会津と長州との確執についてジョークを交えお話されました。その後、東日本大震災直後から警戒区域に入り取材された内容について、スライド写真を映しながら解説されました。

続いて、歴史に見る復旧・復興の姿として、鳥羽・伏見の戦後、会津戦争に至った経緯を細かに解説され、重要なのは戦後処理であり、官軍薩長が会津藩を青森県下北地方等へ流罪とするまで追い詰めることがあったため、今も長州とは手を握りようがないとお話されました。お話の予定はまだあった様ですが、講演終了時間を迎えたため、会津出身の総理大臣が出てくることに期待したいと結ばれました。



写真-3 講演する星亮一氏

(3) 交流パーティー

交流パーティーは同ホテル 3 階右近にて、立食形式で 300 名を超える参加者を迎え開催されました。高木会長の開会挨拶を皮切りに、中井福島大学学長、川上宮城大学理事長・学長の来賓挨拶、鏡開き、坂本文部科学省人材政策課長の乾杯により開宴となりました。

開宴後、各地の技術士が交流を深める中、福島大学アカペラサークル Rainbow Pumpkin に所属するバンド：霖音(りんね)によるライブが披露され、

皆さんバラードに聴き入っていました。宴も終わりに近づき、四国本部の皆さんが阿波踊りを踊りながら壇上に上げられ、次回の全国大会開催地(徳島)の紹介をされた後、中川副会長の挨拶にてパーティーは盛会のままお開きとなりました。



写真-4 霖音(りんね)によるライブ



写真-5 次回徳島大会をPRする四国本部の皆さんとすだちくん

(4) 分科会

① 特別分科会

式典前日の11/11(日)、「ふくしまの未来を考える～未来・創生～」をテーマとした特別分科会が開催されました。開催概要は次のとおりです。

【第1部】講演：きずなのちから

講師：上石 美咲氏(福島大学共生システム理工学類4年生、2015・2016 ミスピーチキャンペーンクルー、2018 うつくしまライシーホワイト)

ミスピーチキャンペーンクルーとして横浜のデパートにて試食会を行っていた際、福島県産と答えた時に試食の桃を吐き出された経験から、現場を知ることが大事と考え、何度も原発視察を行うとともに、震災後の福島の今を伝える活動を行っていることが紹介されました。

【第2部】パネルディスカッション

コーディネータ：中井 勝己氏(福島大学学長)

パネリスト：長澤 利枝氏(NPO 福島環境カウ

セラー協会特別顧問)、千葉 悦子氏(放送大学福島学習センター所長・福島大学名誉教授)、丹野 純一氏(福島県立ふたば未来学園高等学校校長)、武藤 昭一氏(東京電力ホールディングス(株)福島復興本社除染推進室)、和田 豊氏(日本技術士会東北本部福島県支部・(株)ふたば)



写真-6 パネルディスカッションの様子

発災から7年8ヶ月が過ぎた福島の被災地域の状況と課題、既存産業と新しい産業の展開、地域の人材育成について意見交換がおこなわれました。

② 分科会

式典前の午前9:30～12:00に4つの分科会が開催されました。以下に各分科会の内容を示します。

■第1分科会(防災)「東日本大震災の教訓から南海トラフ地震への備え～防災・減災、備えと支援のあり方を求めて～」

●パネルディスカッション

コーディネーター：中村晋(日本大学工学部土木工学科教授)

パネリスト：中村光太郎(サンディエゴ州立大学教授)、磯部雅彦(高知工科大学学長)、大元守(石巻市建設技術管理監)、木田都城子(いわき市議会議員)

■第2分科会(再エネ)「再生可能エネルギー先駆けの地・ふくしまから未来へ～首都圏へのエネルギー供給拠点からの転換～」

●パネルディスカッション

コーディネーター：服部靖弘(福島県産業振興センターエネルギー・エージェンシーふくしま代表)

パネリスト：坂西欣也(産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所所長代理)、加藤勝一(株)元気アップつちゆ代表取締役)、竹村公太郎(日本水フォーラム事務局長)、赤井仁志(東北本部ふくしま未来委員会委員長)

■第3分科会(食と農)「食と農の安全・安心と活性化～食農分野の六次産業化と農村の将来も見据えて～」

●パネルディスカッション

コーディネーター：小山良太(福島大学経済経営学類教授)

パネリスト：小松知未(北海道大学大学院農学研究院講師)、大友和佳子(JA 共済総合研究所研究員)、鈴木賢二(福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター醸造・食品科科长)、佐藤金正(川俣町長)

■第4分科会(男女共同参画)「しなやかな女性の感性を科学技術に活かす～健全な男女参画を目指して～」

●パネルディスカッション(ワークショップ形式)

コーディネーター(基調講演)：小松由美(福島学院大学学長)

パネリスト(話題提供)：松鷲さとみ(鹿児島大学大学院理工学研究科建築学専攻助教)、石川弘子(東北本部男女共同参画推進委員会委員長)

ファシリテータ兼パネリスト：中濱早苗(福島県土木部)、鈴木桃子(福島県土木部)、佐藤恭子(東北本部福島県支部)

会場では各地方からの参加者同士や統括本部の方々との交流が行われる中、アトラクションはベテランダンサーの皆さんによるハワイアンフラダンスショーが催されました。その熟練の舞踊と華やかなハワイアンミュージックに、会場内の参加者からは思わずため息が漏れる盛況ぶりでした。



写真-8 魅惑のフラダンスショー

4. オプショナル行事

(1) ウェルカムパーティー

式典前日の11月11日(日)には、本大会オフィシャルホテルの一つである郡山ビューホテルアネックスにてウェルカムパーティーが開催されました。統括本部並びに各地方から総勢300名を超える出席者があり、北海道本部からも当日参加を含め、20名を超える参加があったようです。パーティーは初日の特別分科会第1部でも講演された上石美咲氏の司会進行のもと、吉田康彦大会実行委員長の開会挨拶、畠良一実行副委員長の乾杯で開宴し、テーブルには地元食材の郷土料理、自慢の銘酒が多数並びました。



写真-7 司会の上石氏・吉田大会実行委員長ご挨拶

最後は熊谷和夫副実行委員長のご発声で約2時間のパーティーがお開きとなりました。

(2) テクニカルツアー

大会式典・記念講演の翌日から、テクニカルツアーが催行されました。今回は、Aコース22名：福島県金賞酒蔵巡り(日帰り；末廣酒造嘉永蔵、鶴ヶ城、宮泉酒造、飯盛山、安積疏水土地改良区他)、B-1

コース 20 名：東電福島第一原子力発電所 (F1) 視察 (日帰り)；楢葉遠隔技術開発センター、発電所構内)、
 B-2 コース 20 名：東電福島第一原子力発電所 (F1) 視察+再生可能エネルギー視察(1泊；二日目はCコースに合流)、C コース 15 名：再生可能エネルギー視察(1泊；福島県環境創造センター、産総研福島再生可能エネルギー研究所、土湯温泉 16 号源泉バイナリー発電所他)の 4 コースの開催でした。特に F1 を見学する B コースは、募集開始後即定員に達してしまうという大人気のツアーでしたが、北海道本部から運良くこれに参加できたのは B-1、2 合計して 5 名でした。最初に訪れた楢葉遠隔技術センターでは、原子炉廃炉に必要な技術や機器・機材の開発が、実物サイズでのオペレーション、3D バーチャルのシミュレーションなどを活用して行われています。

その後福島第一原発へバスで向かう途中には、避難指示地区(富岡町)、帰還困難地区(大熊町)の風景をバスの車窓から見る事ができ、特にゴースタウンと化した大熊町の風景が印象的でした。

発電所構内はカメラ・携帯電話など一切持ち込み禁止、入退出は独立管理棟で厳しく管理され、個々に線量計を身に着けての視察となります。構内の要所に放射線量表示機器が設置され、バス内でもカウンターが常備されています。バス内で十分な許容範囲とは言え、原子炉建屋に近づいた時の数値の急上昇は、見学者の緊張を禁じ得ないものでした。



写真-10 F1 構内見学ルート図



写真-9 楢葉遠隔技術センター

5. おわりに

技術士全国大会は毎年、各地域本部と統括本部(5年に1回)の持ち回りにより開催されており、次回は2019年10月5日(土)~7日(月)に徳島県徳島市で開催されます。今回の福島大会もそうですが、開催地に足を運ぶことで気付かされることが多々あります。今回参加されなかった方も是非一度、大会へご参加いただき、現地の空気を肌で感じていただければと思います。なお今回の参加報告は羽二生事務局長との共同執筆(オプションル行事)でお届けしました。

長井 智典 (ながい ともり)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
 事務局次長
 株式会社ドーコン

